



□ 年 □ 組 番 名前 □

教材 8 - (1) ^{さいがい} 災害 (地しん) について考えよう!

○ 写真やビデオ、新聞、体験した人の話などから思ったことを書きましょう。

- ・ とても大きなひ害があったのだと思った。多くの人がなくなったり、けがをしたりしている。
- ・ けがをした人を助けるために、多くの消防隊の人やお医者さんががんばった。
- ・ 多くの建物がこわれてしまったり、人がなくなってしまうたりする地しんは本当にこわい。今、本当に地しんが起きたらあわててしまうだろう。
- ・ どうして地しんが起こるのか。地しんについていろいろ知りたい。
- ・ あんな大きな建物でもこわれてしまうなんて信じられない。地しんはすごい力をもっている。
- ・ ボランティアの人たちは、自分の仕事があるのに、ひさい者の方のために一生けん命に働いていた。
- ・ ひさい地の人たちは今までの生活ができなくなってしまうている。あれだけのひ害や悲しみがあっても、復こうをめざして一生けん命にがんばっている。



写真や新聞、ビデオなどのしりょうを見たり、お話を聞いたりして、思ったことを整理して、自分が調べてみたいことを確認しましょう。



○ わからないこと、調べてみたいこと、知りたいことを書きましょう。

- ・ 地しんが起こったときには、どうしたらよいか。
- ・ ふだんから準備しておくことは何か。
- ・ 地しんが起きた後、大変だったことは何か。
- ・ 地しんの起こり方や予測の仕方。 ・ 過去の地しんの大きさやひ害。
- ・ 市町村の防災設備や防災体制、ひなん場所。
- ・ 消防隊やレスキュー隊の仕事。 ・ ボランティアの人たちの活動。



○ 調べ方は? (どのように調べたら、知りたいことが分かるかな。)

インタビュー、インターネット、DVD、本、新聞、体験談、見学、体験など

調べる内容にあった方法を考えることは大切です。



○ 見たり、聞いたりしたことを書きましょう。

- ・ ひさい者（死者、行方不明者、負しょう者）や建物のひ害（全かい・半かい、損害額）などが、とっても大きなものだった。多くの人が大変な目にあった。
- ・ ひなん所では、水や食料、冷暖房、トイレ、お風呂など、ふだん何気なく食べたり、使ったりしているものにも困っていた。
- ・ 過去の地しんや地形のデータから、これから起こる地しんの予測ができるようになってきた。今、起こる可能性が高いのは、東海地しんだ。
- ・ レスキュー隊や自衛隊がいろいろな道具や機械を使って、けが人を救助したり、たおれた物をどかしたりしていた。



調べた内容から、理由をしっかりとって、自分の考え完成させましょう。



○ 思ったことや考えたことを書きましょう。

- ・ 大きな地しんが起きたら、多くの人が無くなってしまうので、ふだんから自分たちにできることを考えていくことは大切です。
- ・ ひなん所で生活している人が困っていたので、いつ地しんが起きてもだいじょうぶなように、食べ物や毛布、トイレトーパーなどを準備しておくことは大切です。
- ・ もっともっと科学を發てんさせ、地しんがいつ、どこで、どのくらいの大きさで起こるのかがわかるようにすることは、ひがいを防ぐことにつながります。
- ・ 地しんが起きてもみんなで助け合い、仲良く生活していくことは大切です。
- ・ ひさい者の方やボランティアの人たちは、ひさい地を立て直そうとしているので、ぼくらは何ができるか考えることは必要です。



新しく調べてみたいことがでてきたら、またテーマを作りましょう。



○ まだわからないことや、もっと調べてみたいこと

- ・ 子どもでも、遠くにいても、協力できることは何か。
- ・ 元の状きょうに戻るには、どれくらいの年月と費用がかかるのか。
- ・ 数分後に地しんが起きるといことがわかったら、どうすればいいのか。
- ・ 地しんが起きたときに、あると役立つ物は何か。

○ 自分（自分たち）にできることは？



- ひなん場所やひなん経路、家族との連らく方法などを確認しておく。
- 持ち出しぶくろの中身や、たおれやすいものがないかを点検しておく。
- 訓練のときから、「お・か・し・も」を絶対^{ぜったい}に守る。自分のことは自分で守る。
- 自分だけよければいいのではなく、周りの人のことも考えてひなん（生活）する。特に、小さい子の面どうもみる。
- ひさい地の方のために、ぼ金やボランティア活動をする。

さいがい 年 組 番 名前

教材 8 - (2) 災害を防ぐ工夫を考えよう

○ 災害にそなえる施設や情報など身のまわりにあるものをあげてみよう

- 電柱にある海拔を示す表示
- 緊急避難場所
- 津波がおきたときの一時避難場所
- 学校での防災訓練
- たいしんビルやめんしんビル
- けいたい電話の緊急地震速報



など

やってみよう

- 学区の地図などを使って、防災マップをつくってみよう。
- じっさいに消防署の人などから危険な場所をインタビューしてみよう。
- おうちの人とも災害がおきた時にどうするか話し合っておこう。

○ 地震などの災害がおこったら、どうすればよいか話し合ってみよう。

- あわてずに、学校にいるときは訓練と同じように行動する。
- 危険な場所には近づかないようにする。
- 家族と話し合った場所などに避難する。



- グループで話し合った結果を発表してみよう。
- どこにいるときに災害にあうかわからないので、自分だったらどうするか?を考えておこう。

□ 年 □ 組 □ 番 名前 □

教材 8 - (3) ワークシート

「火事から人々を守る工夫」について調べたことをまとめよう。

見学したときのノートなどを見直して考えてみましょう。

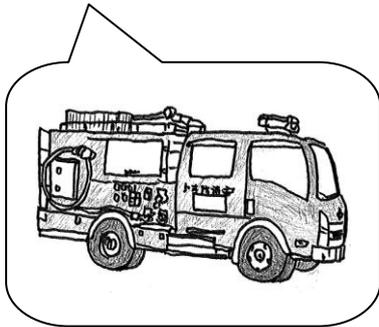
① 下の3つの □ の中に、「調べてわかったこと」をかいてみよう。

● まちづくりは・・・



まちの中には、火事にそなえて、防火水そうや消火せんなど、さまざまなせつびがあります。

● 火事がおきたら・・・



消防しょだけでなく、けいさつや病院など、いろいろなところと協力して消火活動をします。

● 地いきでは・・・



火事のないときも、見まわりなどの防火活動をしています。
自分たちで消防だんを作っています。

- ② 下の の中に、「火事から人々を守るためにどのような工夫をしているか」をかいてみよう。

例：

どんなときでも、人々を火事からまもるためのしせつ
やしくみがあり、消防しょや地いきの人たちなど、たく
さんの人たちが力を合わせています。



社会見学のあとのまとめや消
防の学習のまとめをしてみま
しょう。